

灯油配送効率化へ実証実験

札幌市内の小中学校30校 センサーで残量常時把握

ゼロスペック（本社・札幌市中央区）とミナミ石油（同・札幌市東区）が、札幌市と灯油配送の効率化に向けた実証実験に取り組んでいる。タンクのふたにセンサーを搭載して残量データを常時把握・収集。将来的には供給工程の最適化などにつながる考えだ。市立小中学校30校で展開している。ゼロスペックによると公共施設での活用は全国初となる。

配送業者が灯油の残量を確認するには設置先に向

ゼロスペックとミナミ石油



く必要があり、特に冬季は燃料を切らさないよう頻度を高めなければならない。ただ、給油量が少ないことも多く、ルートを含め非効率になる。また、売り上げは給油量を基に計上するため利益率にも影響する。

これらの課題解消に向け、3者は2月中旬に実証実験を開始。市が場所を準備する形で、今月下旬まで取り組む予定だ。さっぽろ連携中枢都市圏による行政オープンイノベーション事業に採択され、支援金などを受けられる。

ゼロスペックが開発した

センサーを搭載したふた（赤丸部分）を通じて灯油の残量を常に確認できる

自動発注配送管理システム「G・O・N・O」を活用。灯油タンク内を遠隔でモニタリングできる「スマートオイルセンサー」をタンクのふたとして設置した。残量データは、将来的に供給スケジューリング最適化や配送時のCO₂排出量削減につながる。

ゼロスペックはG・O・N・Oの提供を2018年に開始し、現在は37都道府県で数百社が導入。神大地ビジネスチームマネージャーは、配送状況のデータ化による課題の顕在化で「24年問題や人手不足に対応する余裕ができる」と話す。

ミナミ石油は22年からG・O・N・Oを活用。松井秀聡情報システム室主任は、導入で配送回数を従来より3割削減できていると説明する。より多くの顧客にセンサーの利用を促したい考えだ。